

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 飯 田 市

1. 事業名称

飯田市 地域との協働による日本語教育推進事業

2. 事業の目的

飯田市公民館では、継続事業として毎週木曜日午前中に日本語教室「わいわいサロン」を開催している。この教室は平日昼間とあり、働いている方の受講が難しいのが現状。そこで、夜間の日本語教室「わいわいサロンⅡ」を増設する。さらに、より実生活に近い場面や機能を盛り込んだ内容とし、地域の現場の関係者も巻き込んだ地域密着型教室活動を展開する。また、教室で使用する教材を、地域の実情に合った内容で独自に作成する。

3. 事業内容の概要

(1) 教材作成と指導者研修の実施

- ・日本語教室開催期間前に準備期間を設け、日本語指導者が中心となり授業のテーマや進め方を検討し、教材を作成する。

(2) テーマに沿った日本語教室の実施

- ・緊急時の対応や医療、防災など実際の生活の場面に身近なテーマを設定し、教室を実施する。
- ・1期8回程度の教室活動を2期実施する。

(3) 地域・関係機関等との協働

緊急通報や応急処置を学ぶため消防署員を講師に招いたり、市の防災係と協働で避難所シミュレーションを実施したり等。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年9月30日 10:00～12:00	2時間	飯田市公民館	春原直美、榎野武司、吉澤裕美子、木下弥生、氏原理恵子、永田麻美子、大澤志那子、熊谷文世	事業の進め方について	●授業の進行について 授業テーマごとに指導者をグループに分け、担当グループの人がファシリテーターとなり進行していく ●学習者にはある程度の日本語理解力が必要か 日本語習得度をゼロとしていない。レベルチェックのための宿題を用意する ●授業テーマについて 生活のどんな場面を想定するか課題。学校の先生と保護者とのやり取りや市役所での手続きなどニーズをくみ取るにはどうすればいいか今後考える必要がある ●受講者のグループ分けについて 「薬局で薬を買うようになること」といった各授業ごとに到達目標を設け個々のレベルに合う対応ができるようにしたい。母語が同じ学習者を同じグループにすると、母語で話してしまう可能性があるため、グループメンバーをシャッフルするなどした方がよい ●その他 会話はできるが、読み書きはできないという人が多い。そういう人のための日本語学習が実践できていない現状がある。今回の教室で読み書きの練習をする予定はないが、参考にした。
2	平成24年11月26日 15:00～17:00	2時間	飯田市公民館	春原直美、榎野武司、木下弥生、下岡恭子、氏原理恵子、大澤志那子、熊谷文世	●第一期経過報告 ●第二期テーマや授業の進行の仕方について	●指導者の感想 ・グループワークと全体発表のセットで進める授業形態は、学習者にとって適度な緊張感があると感じる。 ・授業で使った教材を残し、今後別の教室に配布できたらいい。 ●教室を見学した委員の感想 ・1回の授業に、情報を盛り込み過ぎている感がある。プレゼン資料をもう少し集中的にする必要がある。 ・学習者が授業内容を理解しているかどうか確認をせずに進めてしまうところがあった。対話を意識したい。 ●第二期テーマや授業の進行の仕方について ・防災や就労に関する日本語を学びたいという人がいる。 ・防災と併せて職場での安全についても検討されたい。 ●その他 ・日本語教育と就労の関係性が調査で明らかになった。高校に進学する子どもたちも増えており、日本語特別支援学級に対して飯田なら何ができるかを考えたい。
3	平成25年2月25日 14:00～16:00	2時間	飯田市公民館	春原直美、榎野武司、吉澤裕美子、木下弥生、下岡恭子、氏原理恵子、大澤志那子、熊谷文世	●第二期経過報告 ●他の日本語教室について	●指導者の感想 ・指導者研修の講師の先生のアドバイスをできる限り取り入れた。アドバイスの取捨選択をグループメンバーと話し合えなかったことが心残り。 ・災害時のための日本語教室を開催。飯田で起こりうる災害について確認し合った。参加者各自の避難所の場所を確認できると良かった。 ●他の日本語教室近況 ・学習者の中に障がいのある人がいる。そういう人のための日本語教育について今後検討が必要。 ・帰国者2世以降の方のための拠点となる場所があってもいい ・教室を20年やってきて、学習者の国籍、年齢、日本語習得度は様々だが、参加者同士の良好な人間関係を築くことこそがチカラを伸ばすうえで一番大切と感じる。 ・支援の対象を市民限定にすると、市外からの相談者に対して支援ができない。特に長野県は、小さな町村に外国籍の方が散住しているため、広域での取組が必要となる。

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称

わいわいサロンⅡ

(2) 目的・目標

学習者の実生活に密着した場面で、使用できる表現や習慣を学び、地域社会へ踏み出して
いけるきっかけをつくる。

(3) 対象者

日本語初級レベルの成人

(4) 開催時間数(回数) 33 時間 (全 16 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・ 自主作成教材(本事業「日本語教育のための学習教材の作成」として作成したもの)
- ・ レアリア
- ・ 「いろはにっぽん生活応援パック」(株)ランズ

(6) 受講者の総数 60 人

(出身・国籍別内訳ブラジル 32 人, フィリピン 12 人, 中国 11 人, モンゴル 2 人,
ベトナム 1 人, ニュージーランド 1 人, オーストラリア 1 人)

(7) 受講者の募集方法

- ・ 外国籍市民団体や小中学校等にチラシ配布
- ・ 地元新聞での掲載

※なお、第2期2月 10 日(日)「防災ワークショップ」、2月 17 日(日)「避難所シミュレーション」は、『災害時のための日本語教室』として別途で受講者を募集した

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者
1	平成24年10月8日 19:00～21:00	2時間	県公民館	8人	中国(2人)、ブラジル(6人)	レベルチェックテスト	簡単な会話とひらがな・カタカナの読み書きがどの程度できるか確認。今後の授業展開におけるグループ分けの基準とした。	1人	下岡恭子	1人	大澤志那子(コーディネーター)
2	平成24年10月22日 19:00～21:00	2時間	県公民館	13人	中国(2人)、ブラジル(8人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)	薬局で薬を買うようになる	「薬局で症状を説明することができる」ことが到達目標。体の部位を覚えるとともに、症状の表現の仕方を学習した。授業の最後は、薬局でのモデル会話を示し、学習者が薬を買う設定で発話練習をした。	8人	下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、木下弥生、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)、市村祐子(託児者)
3	平成24年10月29日 19:00～21:00	2時間	県公民館	12人	中国(2人)、ブラジル(6人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)、モンゴル(1人)	薬の種類や使い方を覚えよう	「薬剤師等の効能、用法、注意の説明を理解すること」が到達目標。薬のラベルを読む練習では、用法・用量に記載されている語彙や薬の種類などを確認した。また、代表的な一般市販薬を示し、効能・効果についても学習。	8人	下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、木下弥生、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)
4	平成24年11月5日 19:00～21:00	2時間	県公民館	10人	中国(2人)、ブラジル(3人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)、モンゴル(2人)	薬局の方をゲストに迎えて薬を買う練習をしてみよう	薬局から薬剤師2人を招き、持参いただいた本物の薬を見ながら薬局で薬を買う会話練習をした。薬に関して副作用や飲み合わせについて等専門的な見地から話を聞いた。	8人	大島裕里子、可児大輔、下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、木下弥生、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	なし	新井麻由子・堀川美也子(託児者)
5	平成24年11月12日 19:00～21:00	2時間	県公民館	12人	中国(2人)、ブラジル(6人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)、モンゴル(1人)	火事のととき、緊急通報できるようにする	「火事の時、119に電話し、受け答えができるよう備える」ことが到達目標。住所の他、場所がわかる目標物が書えるよう、住宅地図を見ながら発話。また、燃えている場所や物が書えるように語彙を確認しながら練習した。	6人	下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、篠田初美、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)、新井麻由子・堀川美也子(託児者)
6	平成24年11月19日 19:00～21:00	2時間	県公民館	9人	中国(2人)、ブラジル(4人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)	救急のととき、救急車を呼べるようになる	「救急の時、119に電話し、受け答えができるよう備える」ことが到達目標。どんな時に救急車を呼ぶか意見を出し合いながら、確認。「呼吸」「意識」など通報時のキーワードがあることを示し、モデル会話文に沿って発話練習を行った。	10人	下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、木下弥生、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	なし	新井麻由子(託児者)
7	平成24年11月26日 19:00～21:00	2時間	県公民館	9人	ブラジル(6人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)	消防署の方をゲストに迎えて緊急通報の練習をしてみよう	消防署員を講師に迎え、緊急通報について学習。受け手側の視点から緊急時に必要な情報を聞いた。また訓練用機器を使い、署員の方が実際に受け答えをする、緊急通報のシミュレーションを実施。	9人	関島弘文、縄浩幸、下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)、新井麻由子(託児者)
8	平成24年12月3日 19:00～21:00	2時間	県公民館	7人	ブラジル(5人)、ベトナム(1人)、モンゴル(1人)	コミュニケーション①	「近所の日本人と会話ができるようになる」ことが到達目標。近所の日本人から頂き物をした一週間後、再び会った際の挨拶の仕方や、職場の立場によって挨拶が異なることなどをロールプレイを通して学んだ。	6人	下岡恭子、山崎りえ子、木下弘子、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)、新井麻由子・堀川美也子(託児者)
9	平成24年12月10日 19:00～21:00	2時間	県公民館	8人	ブラジル(6人)、ベトナム(1人)、モンゴル(1人)	コミュニケーション②	「友達や同僚をパーティーに誘えるようになる」ことが到達目標。誘う時には相手の都合を聞くことや断る場合には丁寧な言い回しを使うことが好まれることなど、日本人と円滑にコミュニケーションが取れる方法をロールプレイとともに学習した。	7人	下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)、堀川美也子(託児者)
10	平成25年1月21日 19:00～21:00	2時間	県公民館	8人	中国(1人)、ブラジル(5人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)	お店での一歩進んだ会話①	「レストランなど飲食店でメニューについて聞きたいことを聞くようになる」ことが到達目標。店員と客に扮したロールプレイを交え、メニューを見ながら注文する練習をした。また、外国籍の方になじみの薄い日本語メニューも紹介。	8人	下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、木下弥生、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	なし	大嶋多恵子・宮下米子(託児者)
11	平成25年1月28日 19:00～21:00	2時間	県公民館	7人	中国(1人)、ブラジル(4人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)	お店での一歩進んだ会話②	「店頭がない商品の注文ができるようになる」ことが到達目標。店員と客によるロールプレイを交え、電気店で在庫切れの商品を取り寄せる練習をした。	7人	下岡恭子、山崎りえ子、井ロー紀、木下弘子、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)、新井麻由子(託児者)
12	平成25年2月4日 19:00～21:00	2時間	県公民館	8人	中国(1人)、ブラジル(6人)、ベトナム(1人)	お店での一歩進んだ会話③	「試着を申し出る。試着後の意思表示ができる」ことが到達目標。販売現場を再現した空間で、店員と客同士のやり取りをロールプレイとともに学習した。	5人	下岡恭子、木下弘子、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	なし	新井麻由子(託児者)
13	平成25年2月10日 13:00～15:00	2時間	さんどびあ農田	31人	中国(5人)、ブラジル(12人)、ニュージーランド(1人)、オーストラリア(1人)、ベトナム(1人)、フィリピン(11人)	防災ワークショップ	可児市の演劇ユニットMICHIE講師に迎え、イス取りゲームやジェスチャーゲームによる体で覚える防災ワークショップを開催。家にあるものを取捨選択して非常持ち出し袋づくりも体験した。	9人	山田久子、ヒグト・ヴァネッサ・クリスティーン、渡辺おかり、多田美保子、片岡まみ、シマダ・ロベルト、渡辺直子、河野悟、菊池祐美子	6人	下岡恭子、木下弥生、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子、大澤志那子(コーディネーター)、新井麻由子(託児者)
14	平成25年2月17日 11:00～14:00	3時間	丸山小学校	30人	ブラジル(19人)、ベトナム(1人)、中国(3人)、フィリピン(7人)	避難所シミュレーション	飯田市の防災担当者を講師に、小学校の体育館で地震発生直後を想定した避難所シミュレーションを実施。地震体験車で震度7の揺れを体感したり、非常食を食べるなどした。ラジオから災害情報を聞き取るアクティビティも実施。	1人	後藤武志	7人	下岡恭子、山崎りえ子、木下弘子、木下弥生、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子、大澤志那子(コーディネーター)、大嶋多恵子・鈴木文子(託児者)
15	平成25年2月25日 19:00～21:00	2時間	県公民館	8人	ブラジル(7人)、ベトナム(1人)	救急法を学ぼう	消防署員を講師に迎え、心肺蘇生法とAED使用の手順を学習。	1人	矢澤靖弘	6人	下岡恭子、山崎りえ子、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子、大澤志那子(コーディネーター)、新井麻由子(託児者)
16	平成25年3月4日 19:00～21:00	2時間	県公民館	8人	ブラジル(7人)、ベトナム(1人)	災害時での情報の取り方を覚えよう	飯田市の防災行政無線、コミュニティFMをはじめ、災害時の情報源を確認。録音した放送内容を聞いて、どんなことを言っているか考えながら理解を促した。市刊行のハザードマップで学習者個々の避難所も確認。	6人	下岡恭子、山崎りえ子、木下弘子、篠田初美、永田麻美子、ジャロ京子	1人	大澤志那子(コーディネーター)、新井麻由子(託児者)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

【10月22日(月)19:00～21:00 鼎公民館】

学習テーマ:薬局などで症状を伝えて薬を買えるようになろう

ファシリテーター:木下弥生 (以下「F」とする)

受講者:13人 指導者:8人

〈事前打合せ〉授業開始 15 分前に指導者が集合し、F が中心になって授業の進め方について最終確認。

19 時過ぎにバラバラと受講者が到着し、指導者・受講者ともに4つのグループに分かれて着席。1つのグループには、指導者1～2人、受講者3～4人。

〈導入〉F が全体へ、病気や体調不良時にどうするかを問いかけ、薬局で薬を買う場面を提示した。

〈グループ談話〉薬局で買い物をしたときの経験や困った体験などを、各グループの指導者が中心となり自由に話した。

〈グループで出た意見の共有〉各グループで話された内容をそれぞれ発表した。F がそれをまとめながら、症状が言えることの必要性を提示した。

〈グループ活動〉症状が言えるようになるために、体の部位の名称の確認を行った。グループで一枚の体のイラストへ、各部位の名称を付箋に書いて貼っていく作業。それを黒板に貼り全体で共有しながら、F が大事な名称を再度確認した。

〈主要文型の提示〉F が全体で、「□□が△△んです」を提示し、使い方を解説した。

〈グループで代入練習〉各グループで作成した体の部位の付箋と、あらかじめ用意した症状(「いたい」など)の付箋を使って、□□や△△部分へ代入しながら口頭練習。

〈他の表現について〉引き続きグループの中で、「□□が△△んです」以外の表現について、受講者レベルに合わせてイラストを見ながら学習。

〈ロールプレイ〉実際に薬局へ行ったと仮定し、受講者が客、指導者が店員となって会話をつくり、グループで一組ずつ発表した。

〈まとめ〉ロールプレイのフィードバックをF がしたあと、受講者各自は個々の評価表に感想や自己評価を記入。指導者も受講者の評価表に評価を書き、授業終了。



【11 月 26 日(月)19:00～21:00 鼎公民館】

学習テーマ:緊急通報を実際に体験してみよう

ゲスト:飯田消防署警防課 関島課長 縄主査 ファシリテーター:下岡恭子

受講者:9人 指導者:9人

〈事前打合せ〉授業開始 15 分前に指導者が集合し、㊦が中心になって授業の進め方について最終確認。ゲストの消防署の方とも打合せと機器の準備。

19 時過ぎにバラバラと受講者が到着し、指導者・受講者ともに3つのグループに分かれて着席。1つのグループには、指導者1～2人、受講者2～3人。

〈導入〉消防署職員の紹介のあと、㊦が全体で、これまで 2 回やった緊急時の通報の仕方等について復習。特に火事の場合について復習。

〈グループ練習〉火事の場合の通報の仕方を、各グループで練習。

〈緊急通報体験〉消防署の方が、練習用の電話等の機器を使用し、応対も実際に即した形でやっていただき、受講者がひとりずつ火事を想定して通報する練習をした。消防署の方からのコメントもいただいた。

〈グループ練習〉救急の場合の通報の仕方を㊦が全体で復習したあと、グループごとに練習。

〈緊急通報体験〉消防署の方が、練習用の電話等の機器を使用し、応対も実際に即した形でやっていただき、受講者がひとりずつ救急時を想定して通報する練習をした。消防署の方からコメントもいただいた。

〈消防署の方のお話〉緊急通報の注意事項について、短時間でお話いただいた。

〈質疑応答〉受講者、指導者から消防署の方へ質問しお答えいただいた。

〈まとめ〉消防署の方から全体の好評をいただき、受講者各自は個々の評価表に感想や自己評価を記入。指導者も受講者の評価表に評価を書き、授業終了。



11 月 5 日(月)
地元薬局の薬剤師を講師に
迎え薬を買う練習をした



2 月 17 日(日)
小学校体育館にて避難所
シミュレーションを実施



2 月 25 日(月)
消防署員を講師に迎え
応急処置講習を開催

(10) 目標の達成状況・成果

一期・二期それぞれ終了後、受講者を対象にアンケートを実施。結果について下記の通り。
第二期は集計中につき、第一期のみ。

◆この教室で学習して、よかったことはなんですか？

- ・基本的な言葉の学習ができてよかった。
- ・ことばだけでなく、緊急時の対応などが学習できた。
- ・授業を進める上で、できるだけ簡単な内容と語彙が活用されていて良かった。また、わかりやすい教材がいつも用意されて良かった。日本人の人たちが役割を決めてのロールプレイが良かった。
- ・ネイティブの日本語話者や日本語を勉強している他の外国人と会話する機会を得られたことは良かった。役に立つ話題が選ばれていて、よく準備された授業だった。もらった資料などは参考になった。
- ・根気よく先生が説明してくれたこと。消防署への通報のしかた、救急車の呼び方などを学ぶことができました。

以上の結果より、受講者の実生活に密着した場面で使用できる表現や習慣をテーマとして取り上げることができた。しかしながら、日本語教室終了直後のアンケートではほぼ授業内容の感想に過ぎず、その学習達成度や成果は長期的に受講者へヒアリングをするなどして検証をする必要がある。ただ、受講者の一人から、日本語教室で習った表現を使い薬局で「のどが痛いです」と症状を伝えて薬を買うことができたという報告もあり、テーマ「薬局」での到達目標を達成できたと感じる。

また、

◆今後の日本語教室にもしあなたが参加するとしたら、どんな時の日本について勉強したいですか？

という問いに対し、

- ・法律、郵便、おつきあいについて
- ・ごみの分別
- ・丁寧な日常会話
- ・CDなどのレンタルカードの作り方
- ・書店での本の注文のしかた
- ・新しい友達のつくり方、職場や近所の人たちとの会話のしかた
- ・日本人とどうやったら親しくなれるか

といった内容が寄せられた。

日本人とうまく関係を築きたい、日本人のコミュニティに足を踏み入れたいという意欲を感じる。
今後は、公民館活動を通して地域に踏み出すきっかけづくりを仕掛けたい。

(11) 改善点について

指導者と受講者間の信頼関係は、毎回少しずつ築いていけたように感じたが、受講者同士や、教室全体のまとまりのようなものはあまり構築できなかった。教室以外のイベントなども積極的に取り入れる必要があるのではないかと。第二期は、冬季の開催ということで受講者の集まりは芳しくなかった。広報の方法を今一度検討する必要があることと、開催時期の検討も必要である。

また、前出のアンケートで

◆この教室で学習して、あまりよくなかったことはなんですか？

という問いに対しては、

「一度にたくさんの新しい情報が提示された時など、時々時間が足りないと感じることがあった。」といった声が聞かれた。

受講者の中には、2・3回だけ来てリタイヤをしてしまう人もいた。日本語教室の対象レベルを読み・書き・会話がある程度可能な日本語初級としたが、個々にレベルの差があったことや、アンケート結果のように、情報量に対して理解を促すフォローが行き届いていなかったのではと推測される。今後は授業の情報量にゆとりを持たせるほか、学習以外にレクリエーションのような交流を組み込むなどして、受講者のモチベーションを維持する・高める仕掛けが必要である。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

わいわいサロンⅡ指導者研修

(2) 目的・目標

日本語指導者のスタッフが、教室運営に関するノウハウや教授法、教材作成法などを学び、教室活動へ実際に役立てる。また、今後の自立した活動へ繋げる自主性を醸成する。

(3) 対象者

わいわいサロンⅡに携わる指導者

(4) 開催時間数(回数) 61 時間 (全 20 回)

(5) 使用した教材・リソース

・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』

(文化審議会国語分科会)

・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』

(文化審議会国語分科会)

(6) 受講者の総数 8 人

(出身・国籍別内訳 日本 8 人)

(7) 受講者の募集方法

わいわいサロンⅡの指導者を対象としたため、特に告知なし

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者
1	平成24年9月29日 13:30～16:30	3時間	県公民館	8人	日本(8人)	日本語教育教授法	教授法、教材作成の進め方について講義。第一期について各チームの教材・教案の素案をもとに意見交換。	1人	横内美保子(南山大学准教授)	1人	大澤志那子(コーディネーター)
2	平成24年10月6日 13:00～16:00	3時間	飯田市公民館	8人	日本(8人)	教材作成について	各チームそれぞれ検討中の教案・教材について発表し、意見交換。	1人	大澤志那子	なし	
3	平成24年10月13日 14:00～17:00	3時間	県公民館	6人	日本(6人)	教材作成について	各チームそれぞれ検討中の教案・教材について発表し、意見交換。	1人	大澤志那子	なし	
4	平成24年10月24日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(薬局チーム)	教案、授業展開について話し合い。カリキュラム案を参考に教材に盛り込む内容の検討。	1人	木下弥生	1人	大澤志那子(コーディネーター)
5	平成24年10月27日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(薬局チーム)	カリキュラム案を参考に教材作成の実施。	1人	木下弥生	なし	
6	平成24年10月28日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(コミュニケーションチーム)	カリキュラム案を参考に作成する教材の検討。	1人	大澤志那子	なし	
7	平成24年11月2日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(薬局チーム)	作成した教材について協議。授業の打ち合わせ。	1人	木下弥生	なし	
8	平成24年11月17日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	1人	日本(1人)	教材作成(緊急通報チーム)	カリキュラム案を参考に作成する教材の検討。	1人	下岡恭子	1人	大澤志那子(コーディネーター)
9	平成24年11月20日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(緊急通報チーム)	カリキュラム案を参考に教材作成の実施。	1人	下岡恭子	なし	
10	平成24年11月24日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(緊急通報チーム)	作成した教材について協議。授業の打ち合わせ。	1人	下岡恭子	なし	
11	平成24年12月26日 13:30～16:30	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(メニューチーム)	教案、授業展開について話し合い。カリキュラム案を参考に教材に盛り込む内容の検討。	1人	木下弥生	なし	
12	平成25年1月5日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(試着チーム)	教案、授業展開について話し合い。カリキュラム案を参考に教材に盛り込む内容の検討。	1人	下岡恭子	1人	大澤志那子(コーディネーター)
13	平成25年1月7日 13:00～16:00	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(注文チーム)	教案、授業展開について話し合い。カリキュラム案を参考に教材に盛り込む内容の検討。	1人	大澤志那子	なし	
14	平成25年1月9日 13:30～16:30	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(メニューチーム)	カリキュラム案を参考に教材作成の実施。	1人	木下弥生	1人	大澤志那子(コーディネーター)
15	平成25年1月15日 9:30～12:30	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(注文チーム)	カリキュラム案を参考に教材作成の実施。	1人	大澤志那子	なし	
16	平成25年1月15日 13:30～16:30	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(メニューチーム)	作成した教材について協議。授業の打ち合わせ。	1人	木下弥生	1人	大澤志那子(コーディネーター)
17	平成25年1月17日 13:30～16:30	3時間	りんご庁舎	2人	日本(2人)	教材作成(試着チーム)	カリキュラム案を参考に教材作成の実施。	1人	下岡恭子	なし	
18	平成25年1月26日 9:00～12:00	3時間	飯田市公民館	2人	日本(2人)	教材作成(注文チーム)	作成した教材について協議。授業の打ち合わせ。	1人	大澤志那子	なし	
19	平成25年1月26日 9:00～12:00	3時間	飯田市公民館	2人	日本(2人)	教材作成(試着チーム)	作成した教材について協議。授業の打ち合わせ。	1人	下岡恭子	なし	
20	平成25年1月26日 12:30～16:30	4時間	飯田市公民館	7人	日本(7人)	日本語教育教授法	第二期の教授法について各チームの教案・教材の素案をもとに講義。薬局チームのフィードバック。	1人	横内美保子(南山大学准教授)	1人	大澤志那子(コーディネーター)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

【第一期指導者全体研修 9月29日(土)13:30～16:30 県公民館】

講師:横内美保子氏(南山大学准教授) 参加者:「わいわいサロンⅡ」指導者8名

内容:第一期教室の(10月8日～12月10日)教案、教材等について指導をいただく

◆薬局チームのリーダー(木下弥生さん)より、授業の進め方や使用する教材について、チームで進めてきたことを全体に発表。横内先生から助言や指導をいただいた。

◆緊急通報チームのリーダー(下岡恭子さん)より、授業の進め方や使用する教材について、チームで進めてきたことを全体に発表。横内先生から助言や指導をいただいた。

◆コミュニケーションチームのリーダー(大澤志那子)より、授業の進め方や使用する教材について、チームで進めてきたことを全体に発表。横内先生から助言や指導をいただいた。

- ◆横内先生より、全体的にいえることや教授法のアドバイスをいただいた。
- ◆横内先生の助言等を受け、各チームに別れてそれぞれの授業内容について協議。
- ◆各チームで改善点等を発表し、横内先生からコメントをいただいた。
- ◆全体で質疑応答をし、横内先生から役に立つサイトや最近のボランティア教室の動向などについてお話をいただき、終了。



【第二期メニューチーム研修 1月9日(水)13:30～15:30 りんご庁舎市民サロン】

指導:木下弥生(チームリーダー) 参加者:メニューチーム指導者2人、大澤(コーディネーター)

- ◆木下さんの進行で、まず授業の到達目標を話し合って設定した。
- ◆授業の流れについて、木下さんの原案をもとに検討した。
- ◆授業の各場面で具体的にどのような活動にするか、どんな教材が必要かについて検討し、教材を作成する分担を決めた。
- ◆次回研修の日程を調整し終了。



(10) 目標の達成状況・成果

指導者反省会議を実施。『わいわいサロンⅡ指導者研』として教室での指導に直結した研修を開催したことから、「教授法や教材作成研修で学んだことをそのまま実践へと繋げることができた」「教案を用意して学習を進めたのは初めてで難しかったが、自分たちで組み立てをすることが勉強になった」という声が聞かれた。

以上より、教室活動の実際へ役立てるという点では達成したと言って良い。今後の自立した活動へ繋げる自主性の醸成については、現在途上にあり、長期的に考察していきたい。

(11) 改善点について

- ・教材作成を指導者研修に位置づけ成果があった一方で、過密日程による負担感も同時に発生した。今後は余裕をもった日程調整が必要と考える。

- ・作成した教材や教案を使って実際に指導する際、どう声かけをするかや、効果的な練習方法の具体例などまでには指導が及ばなかったため、不安を感じた指導者も存在した。全体でのもう少し細かい教授法などの研修も必要である。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

わいわいサロンⅡテキスト集

(2) 対象

日本語初級レベルの成人

(3) 目的・目標

学習者の実生活、当地域の実情に合わせたテーマ別の独自教材を作成し、実際の教室活動において使用する。

(4) 構成

①薬局

- ◆「薬局で薬を買えるようになろう」

到達目標:薬局で症状を説明することができる

- ◆「薬の種類や使い方を覚えよう」

到達目標:薬剤師等の効能、用法、注意の説明を理解する

②緊急通報

- ◆「火事のと時、緊急通報できるようになろう」

到達目標:火事の時、119に電話し、受け答えができるよう備える

- ◆「救急のと時、救急車を呼べるようになろう」

到達目標:救急の時、119に電話し、受け答えができるよう備える

③コミュニケーション

- ◆「あいさつ」

到達目標:近所の日本人と会話ができるようになる

◆「さそう」

到達目標: 友達や同僚をパーティーに誘えるようになる

④お店での一歩進んだ会話

◆「メニュー」

到達目標: レストランなど飲食店でメニューについて聞きたいことを聞けるようになる

◆「注文」

到達目標: 店頭にはない商品の注文ができるようになる

◆「試着」

到達目標: 試着を申し出る、試着後の意思表示ができる

⑤防災

◆災害時での情報の取り方

◆応急処置の手順

(5) 使い方

①薬局

◆「薬局で薬を買えるようになろう」

1 からだのばしょのなまえ

体の部位の名称を覚えるため、ふせん等に体の部位名を書き、該当箇所に貼る。

2 様々な体の症状を表すイラストと語彙集

「～がいたい」をはじめ、症状の表現方法をイラストに当てはめながら学ぶ。

3 薬局・ドラッグストアでのモデル会話文

症状を代入して使用できる。「～が～んです」という口語表現についても学習。

◆「薬の種類や使い方を覚えよう」

1 用法・用量のラベル見本

服用量や食後等、ラベルに頻出の語彙を意味を書き込みながら覚える。

2 薬の種類

錠剤やカプセル、粉薬といった薬の形状、服用・使用方法についてまとめている。

3 薬の効能・効果。代表的な日本の一般用医薬品を例示。枠内にまとめた症状と、その症状に対して効能・効果がある薬とを線で結ぶ。

②緊急通報

◆「火事のとて、緊急通報できるようになろう」

1 通報時のモデル会話

消防署員の質問に対し、通報者の答えを穴埋めする。

2 住宅地図

住所以外にも場所がわかる目標物を言えるようにするために使う。「～の近くです」

「～の前です」など、地図を指しながら発話する。

3どこがもえていますか？

「～で～が燃えています」を定型文にいくつか発話する。

4火事を通報する際、必要な語彙をまとめている。

◆「救急のとき、救急車を呼べるようになろう」

1通報時のモデル会話

救急車はどんな時に呼ぶか話し合う。

2どうしましたか？

イラストを参考に(場所)から落ちた、(体)を打った・切った、(体)が痛いなど、状態や症状を伝える練習をする。

3救急通報ポイント

「からだのどこですか？」「いつから？」「かかりつけの病院は？」など通報時に重要な手がかりとなる質問・返答を例示。

③コミュニケーション

◆「あいさつ」

【1】は、外国籍の人が近所に住む日本人から頂き物をした一週間後、再び二人がスーパーで会うという設定。「この前はありがとうございました」と、過去の出来事に対してお礼が言えることが重点。

【2】は、職場での帰宅時の挨拶。「おつかれさまでした」「ごくろうさま」など立場に合う挨拶を選ぶ。指導者が演技するなどして例示し、学習者に考えてもらう。

◆「さそう」

【1】は、外国籍の人が日本人を娘の誕生日パーティーに誘う場面。相手の都合を聞くことが重点。

【2】は、会社の忘年会に誘われる場面。断る場合、丁寧な断り方をすることが重点。

【1】で相手の都合を聞けなかったり、【2】ではハッキリ断ったりと、各場面で正しい言動や表現を織り交ぜ、学習者に考えてもらう。

④お店での一歩進んだ会話

◆メニュー

1モデル会話文

外食時の経験をグループで話し合い、メニューについて聞きたいこと、聞けなかったことなどが挙がったら、レストランでよく交わされる会話として例示する。

2参考和食メニュー

指導者はメニュー表を参考に、そのメニューがどんなものか学習者に想像させるよう導きながら一つひとつ説明する。

3参考和食メニュー(写真付)

学習者は、2による指導者の説明を聞きながら3の「せつめい」の欄に母語でも良いので書き込んで覚える。

◆注文

1 会話・ききとり練習シート

シートにあるモデル会話に準じて指導者が店員と客に扮して寸劇をする。学習者は、何が起きていたかグループで話し合う。状況がわかったところで、そのような場合客としてはどう言えば良いかをグループごとに考える。「どのくらいかかりますか」「おねがいします」といったフレーズが出るのがねらい。

2 期間の言い方チャート

「どのくらいかかりますか」というフレーズが注文時には大切であることを強調し、それに対する返答を提示。「～日」「～週間」「～ヶ月」などの場合の数字の変化も確認する。

◆試着

1 試着時の会話

いつもどんな店で服を買うか質問。買いたい服が自分に合うか見たいときは「試着」をするということを導く。その際必要な会話を考えるための例文。「～てもいいですか」というフレーズが出ると良い。

2 試着時に「～てもいいですか」という許可を求めることが大切であることを強調。試着以外に挙げた例文で発話練習する。

3 試着後の意思表示。試着後の会話について、買う・買わない・他の物を見たいなどそれぞれの場合で考える。

◆災害時での情報の取り方

緊急地震速報や防災行政無線など、実際に着信音、チャイム、訓練放送を流し、災害時にはどの媒体からどんな情報が得られるかを覚える。

◆応急処置の手順

心肺蘇生とAEDの使用法について、空欄の穴埋め、発話練習を交えながら講習する。

(6) 具体的な活用例

- ① 薬局で薬を買う会話練習
- ② 緊急通報シミュレーション
- ③ あいさつ、招待をテーマに寸劇を交えた会話練習
- ④ 買い物をテーマとした会話練習
- ⑤ 消防署員を講師に招いて応急処置講習

(7) 成果物の添付

別添

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

飯田市公民館では、継続事業として毎週木曜日午前中に日本語教室「わいわいサロン」を開催している。この教室は平日昼間とあり、働いている方の受講が難しいのが現状。そこで、夜間の日本語教室「わいわいサロンⅡ」を増設する。さらに、より実生活に近い場面や機能を盛り込んだ内容とし、地域の現場の関係者も巻き込んだ地域密着型教室活動を展開する。また、教室で使用する教材を、地域の実情に合った内容で独自に作成する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

受託事業名を『飯田市 地域との協働による日本語教育推進事業』としている通り、“地域との協働”を目標に事業を進めた。運営委員には、市内外の日本語講師を選出し、それぞれの日本語教室の状況や学習者に関する相談等ができた。また、日本語指導者も飯田市のみならず、近隣の町村から集まり、自然発生的ではあるが、広域的な取組体制ができた。日本語教室の講師として薬剤師や消防署員ら専門的な立場の関係者にも事業へ参画いただいた。よって、第一段階として“地域との協働”は、概ね達成することができた。

2008年のリーマンショック以降、外国籍市民は定住化傾向にある。(飯田市の在留外国人は、2013年2月末日現在、2,170人。)前出の受講者に行なったアンケートで、今後学びたいテーマとして「おつきあい」「丁寧な日常会話」「日本人とどうやったら親しくなれるか」などが挙がっているのも、外国籍市民が日本の地域社会で日本人と同じように生活をしようという意思の表れと感じる。また、外国籍市民が集住する地域では、地域の人と外国人とが組合活動等を共にできないなどの課題がある。公民館活動を皮切りにどのような支援ができるかを今後検討し、第二段階としての“地域との協働”に着手したい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

- ・授業で扱うテーマの選定時に、標準的なカリキュラム案の行為の事例一覧を参照した。より具体的な場面を絞りこんだり、一般的であるかどうかを検証する際大変参考になった。
- ・各テーマごとの教材作成時に、教材例集及びカリキュラム案の「やりとりの例」や「文法」「語彙」の項目を参照した。具体的な会話例や語彙が書き出されているため、ゼロから考えるのではなく、カリキュラム案の内容を原案として地域にあったものへとアレンジすることができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回、地元薬局の薬剤師、消防署員、市の防災係をゲスト講師に迎え、日本語教室を展開した。薬局で薬を買う、緊急通報をする、避難所生活をするといった実際の場面を想定し得る、リアリティのある日本語教室が展開できたと感じる。地域の関係者にとっては、「生活者としての外国人」に対する意識が高まったのではないかと思う。中でも、地元の消防署との連携について言えば、外国人のための緊急通報や後応急処置の講座が初めてであったが、今後も継続していく方向づけをした。また、市の防災係とは、他の自治体の先進事例に学びながら地域の人と外国人と一緒に防災訓練できるよう検討している。これからも、多文化共生に係るヨコの繋がりを築き、様々な分野で連携が図れるよう、体制整備をしていきたい。

(5) 改善点, 今後の課題について

今回連携した各関係者と教室を進めていく中で、受講者が理解しきれない用語が並ぶことがあった。例えば、薬局で薬を買う際に頻出の「副作用」は、受講者が覚えておかなければならない用語の一つだが、「服用」は「薬を飲む」、「食前・食後」は「食べる前・食べた後」など、言い換えができる用語もある。マニュアル等徹底しなくても、“やさしい日本語”対応の普及を訴えていくことが重要と考える。また、地元のコミュニティFMでは、一部で多言語放送を実施しているが、尋ね人や地震などのお知らせに関して、やさしい日本語による原稿は用意されておらず、今後働きかけて共に検討していく必要がある。

(6) その他参考資料

日本語教室「わいわいサロンⅡ」第一期終了時にまとめたアンケート、第二期アンケート
(現在集計中)を添付

にほんごきょうしつ 日本語 教 室 についてのアンケート（第一期）

わいわいサロンⅡに^{さんか}参加してくださってありがとうございました。

これからの^{きょうしつ}教室をもっといいものにするため、アンケートにご^{きょうりょく}協力ください。

1. この^{きょうしつ}教室で^{がくしゅう}学習して、よかったことはなんですか。

- ・ 基本的な言葉の学習ができてよかった。
- ・ ことばだけでなく、緊急時の対応などが学習できた。
- ・ 日本の方が熱心で、教材を準備していただいてありがとうございます。日本語の教師のような教え方ですごいと思いました。
- ・ 授業を進める上で、できるだけ簡単な内容と語彙が活用されていてよかった。またわかりやすい教材がいつも用意されてよかった。日本人の人たちが役割を決めてのロールプレイがよかった。（すごくおもしろかった!!）
- ・ 学習したテーマはどれもよかった。また教室の進め方も良かった。
- ・ 根気強く先生方が説明してくれたこと。消防署への通報の仕方、救急車の呼び方、薬の買い方や説明の読み方などを学ぶことができました。教室が終わってしまって寂しいです。
- ・ ネイティブの日本語話者や、日本語を勉強しているほかの外国人と会話する機会を得られたことは良かった。役に立つ話題が選ばれていて、よく準備された授業だった。もらった資料などは参考になった。とても良い教室でした、ありがとう!!

2. この^{きょうしつ}教室で^{がくしゅう}学習して、あまりよくなかったことはなんですか。

- ・ 特にありません。
- ・ 時々時間が足りないと感じることがあった。一度にたくさんの新しい情報が提示された時など。
- ・ この項目については何も言うことはありません。ただ感謝のみ!!
- ・ 不満などはありません。全部よかったです。

3. 1 月の後半から 3 月まで、また^{きょうしつ}教室を開きます。^{かた}教室のやり方は、^{こんかい}今回と同^{おな}

じょうに、全体が同じテーマで、^{ちい}小さいグループに分かれて^わ勉強^{べんきょう}します。

もしあなたが参加するとしたら、どんな時の日本語について勉強したいですか。

例のように具体的に書いてください。

例) レストランで、メニューをみただけでわからないことを、店員さんに聞く時の言い方。

- ・ 法律、郵便、おつきあいについて
- ・ ごみの分別
- ・ 丁寧な日常会話
- ・ TUTAYA で CD などのレンタルのカードの作り方が知りたい
- ・ 平安堂で、買いたい本が見つからず、本を注文したいときどうすればいいか
- ・ 新しい友達のつくり方、職場や近所の人たちとの会話のしかた
- ・ 日本人とどうやったら親しくなれるか

災害時のための日本語教室についてのアンケート

災害時のための日本語教室に参加していただき、ありがとうございました。これからの

教室活動をもっと良くするために、参加していただいたみなさんにアンケートをお願いします。

下の質問1～6のあてはまるところへ ☒ をし、コメントがあれば母語で書いてください。

1 ご出身はどちらですか ☐ 中国 ☐ ブラジル ☐ フィリピン ☐ その他

()

2 あなたが参加した教室はどちらですか。

☐ 2月10日 防災ワークショップ（さんとぴあ） ☐ 2月17日 避難所シミュレーション

まるやましょうがっこう
(丸山小学校)

3 参加した教室でやった内容はどうか。

- ☐ とてもよかった ☐ まあよかった ☐ あまりよくなかった
☐ よくなかった

コメント

4 参加した教室の講師の説明はどうか。

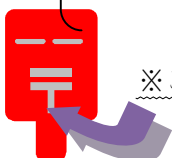
- ☐ とてもよかった ☐ まあよかった ☐ あまりよくなかった ☐ よくなかった

コメント

5 参加した感想を自由に書いてください。

6 これから日本語教室で勉強するとしたら、どんな場面の日本語が必要ですか。具体的に書いてください。

に書いてください。



※この紙は、同封の返信用封筒へ入れて、3月末日までに投函してください。



ご協力ありがとうございました。